

2026年2月24日

2025年度 第2回理容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2026年2月24日(火) 10:00-11:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 2F 実習室 E
3. 出席者 7名

	氏名	所属
1	熊野 博仁	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会
2	中田 和伸	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会
3	若月 良仁	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会
4	若林 一樹	株式会社大野孝 グループ 本部企画室長
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 法人本部長
7	原田 怜	埼玉県理容美容専門学校 教務課長
8	松本 朋子	埼玉県理容美容専門学校 理容科教員

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)
5. 2025年度第2回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)

前回9月に開催された第1回委員会での議論を踏まえ、前期の報告と後期授業の実施状況について各担当が報告し、その後教育課程編成委員との意見交換をすることを説明した。
6. 現況報告 (教務課長 原田 怜)

前回会議で議題となった学生のコミュニケーション能力向上のため、1階のサロン実習室でロールプレイング授業を昨年度より多く実施したことが報告されました。10月25日に開催された感謝祭では一般のお客様を招き、このロールプレイング授業の成果が実際のサービス提供で活かされたとの評価がありました。
7. 学生生活

今年度の2年生については懲戒処分事案が数件発生したことが報告されました。夏期休暇期間中に補講で登校していた学生の意識が緩み、無許可でバイク通学し

近隣駐車場への無断駐輪した事で学校にクレームが入りました。

8. 学生のイベント活動

- ① 9月23日の浦和踊りに1年生が参加し、運営補助として積極的にボランティア活動したことが報告されました。
- ② 学生たちが自主的に「やります」と声をかける姿勢を見せ、年齢を問わず積極的に取り組んでいたと評価しました。
- ③ 10月3日の文化祭についても、準備期間が短い中で学生たちが一生懸命取り組んだことが報告されました。
- ④ 10月25日の感謝祭では来場者数が前年の230名から324名へと大幅に増加し、サロン形式やカットブースの内容改善により、お客様満足度の向上が図られました。

9. 定期試験・各種検定試験結果

- ① 1年生の学科試験では受験者19名中14名が不合格(約74%)、実技試験では約20%が不合格となりました。
- ② 2年生では学科試験の不合格率が88.2%に達し、実技試験でも20%程度の不合格者が出ました。特に今年の2年生について、勉強面・実技面ともに良好とは言えない状態であることを報告しました。
- ③ 検定試験については、ネイル検定と日本化粧品検定2級が実施され、化粧品検定では利用科の1年生3名が受験し、2名が合格(66.6%)したことが報告されました。

10. 在籍の状況報告 (松本委員長)

- ① 72期生(2年生)の詳細な状況報告がありました。現在の在籍数は17名で、1月から不登校となり退学を希望する学生が1名出たため、国家試験受験者は16名となりました。
- ② 既卒者の国家試験対策では不合格者2名が取り組んでいるものの、学科の勉強会に参加しなくなった学生もおり、心配な状況が続いています。
- ③ 73期生(1年生)については、後期からミディアムカットをスタートし、校内試験を2回に分けて実施したことが報告されました。運行順序の確認と姿勢・はさみの使い方を重点的に指導し、仕上がりについては2年次での完成を目標としていま

11. 生活指導面

- ① 深刻な問題が継続していることが明らかになりました。2月23日に1年生が非常階段で喫煙する事案が発生し、停学処分となりました。は毎年続く喫煙問題について、「どうしてもやめられない」学生への指導方法に苦慮していることを表明しました。
- ② 国家試験の実技試験結果について、練習時にはできていたバリカンラインの処理が本番で出来ていなかった学生があったことを報告し、緊張や環境の違いが影響したと分析しました。

- ③ 学科試験についても模擬試験では徐々に点数が上がっているものの、過去問に慣れすぎて本番での対応力に不安があることが指摘されました。

12. 卒業・進級認定について報告（原田課長）

- ① 卒業認定について2月19日の卒業認定会議で72期は17名の在籍中、10名が認定され、6名は単位不足のため3月での認定、1名は退学となる予定です。
- ② 1年生については19名在籍中、2月26日の進級認定会議で単位取得状況に応じて認定が行われる予定です。
- ③ 退学者の状況については73期1年生で入学者20名中今期1名が夏に退学、72期2年生では入学者19名中2名が1年次に退学し、現在17名が在籍していることが報告されました。

13. 問題提起（千住部長）

① 喫煙問題について

松本委員長：建物内での喫煙禁止にもかかわらず、学生が喫煙を我慢できない状況について非喫煙者として理解に苦しむ。どう対応すべきか。

中田委員：飛行機内では我慢できるのに学校内でできない理由について疑問である。ルールを守れる環境作りが重要ではないか。また、年齢的に喫煙が禁止されていることを強調し、抑止力として罰則の厳罰化も検討すべきである。

若林委員：現在の対応で喫煙による退学者が出ていないことは評価される。抑止力として十分機能しているのではないか。

若月委員：交通違反の点数制度を例に挙げ、停学処分的重要性を学生に徹底的に理解させる必要がある。また、連帯責任制度の導入についても検討してはどうか。1人の違反で全員が処分を受ける仕組みの検討を提案する。

熊野委員：寮生活の経験から、学生が様々な誘惑に晒される現実はある。学校のブランドを背負っている自覚の重要性を強調した指導は必要。また、リスペクトできる存在の必要性が抑止力になる。技術的に優れた教員の存在が、学生の模範となることはとても重要である。

② 次年度に向けた指導方針について

中田委員：現在の取り組みを継続することが重要である。

若林委員：コミュニケーション機会の増加と個人面談の重要性、学生一人一人との対話時間を設けることを提案する。

若月委員：質問しやすい環境作りが大切である。学生が分からないことを分からないと言える雰囲気づくりが望ましい。国家試験を通過点として捉え、その先のビジョンを持たせることが学生の将来に貢献する。

熊野委員：補習授業の在り方について、単なる罰則ではなく関連する内容を学習させ

ることが必要ではないか。欠席や遅刻に対する補習は、漫然とワインド技術で時間数を埋めるのではなく、該当する授業内容に特化させることで教育効果を高めるべきである。

14. 次年度の委員会開催予定（千住部長）

第1回を9月、第2回を翌年2月頃に開催する予定である。

15. 校長挨拶

委員からの意見を踏まえて、教育の充実のために必要な改善を継続したい。

16. 今後の行動項目

- ① 1階のサロン実習室でのロールプレイング授業を継続実施する。
- ② 校内試験の不合格者に対する補習指導を強化する。
- ③ 国家試験対策として学科の勉強会参加を促進する。
- ④ バリカンライン処理の実技指導を本番環境に近い形で実施する。
- ⑤ 3月の卒業認定会議で単位不足学生の最終認定を行う。
- ⑥ 喫煙問題に対する効果的な指導方法を検討する。
- ⑦ 補習授業を関連授業内容に特化した形に改善する。